

奥村組成長の軌跡

1907~ 黎明

奥村組の歴史が、始まる

1907年(明治40年)2月22日。5日前に父が亡くなり、母と幼い弟や妹の生活が太平の肩にかかってきた。「いかなる難局でも飛び込んで忍耐する覚悟がある。他人が難しがって尻込みするような業務に就きたい」このような決意を持って土木建築請負業の世界に入る。奥村組創業者・奥村太平27歳の旅立ちであった。

1907(明治40年)
奥村太平が土木建築請負業を創業



奥村太平

1921(大正10年)
奥村組発足
本店事務所を奈良県北葛城郡下田村に開設
奥村組の第1号工事となる「大正水力電気神戸幹線第2工区特高送電線建設工事」を受注
奥村組の第1号工事となった送電線工事は、難工事であったが、新生の意気に燃え仕事に精を出し、1921年に竣工。

1924(大正13年)
大阪市に奥村組本店を開設



大阪市天王寺区北河堀町の奥村組本店

1938~ 飛躍

戦時体制下から戦後復興へ

1938年(昭和13年)3月、奥村組は株式会社へ改組。戦時体制下で水力発電、鉄鋼、鉄道など各分野の工事に奮闘を続けた。戦局がいよいよ悪化する中、奥村組は電力増強の使命を受けた神野瀬水力発電所の巨大工事、鉄鋼増産の要請に応える八幡製鐵所の建設工事などに全力を傾けて施工に当たった。そして終戦。戦後の混乱から本格復興に向け、社会経済とともに社会資本の整備が急速に進められた。

1938(昭和13年)
株式会社奥村組を創立
奥村太平個人経営奥村組の事業一切を継承し、株式会社奥村組が誕生。

1940(昭和15年)
日本発送電・神野瀬、君田発電所工事
奥村組にとって戦前最大規模の工事。



建設中の君田水力発電所取水口

日本製鐵八幡製鐵所へ人員を集中
戦時中の日本製鐵八幡製鐵所において、工場、倉庫など多種多様の工事をほとんど特命で受注。

1955(昭和30年)
浪花のシンボル通天閣を施工



新世界にそびえる建設中の二代目通天閣

1962~ 成長

持続的な成長を支える技術

1965年(昭和40年)来るべき技術競争時代を見越して大阪市内に技術研究所を開設した。建物の地下壁や杭としても使用できる連続地中壁工法などの基礎工法を開発。実験動物飼育システムは大塚製薬徳島研究所に採用された。トンネル関連のシールド、TBM工法などの実績も重ねる。1985年(昭和60年)、研究体制の一層の拡充を期してつくばにも技術研究所を開設した。

1962(昭和37年)
奈良県庁舎建築工事を受注
奥村組初のBCS賞受賞
創業以来の重大工事、池原発電所第2工区新設工事を受注

1965(昭和40年)
日本初の泥水式シールド工法「OCMS工法」(Okumura Circulation Mechanical Shield)を開発
各地でシールド工法による施工実績を積み重ね、1968年4月19日、かねて特許出願中であったシールド工法の掘削装置について特許が確定、特許番号第516245号が登録された。

1986(昭和61年)
日本初の実用免震ビル完成
奥村組は免震のバイオニアとなった
他社に先駆けて免震構法を実用化することを目的として、1980年に免震の研究に着手。
奥村組が実用免震ビルを建設するという情報が流れると、免震への注目が急に高まり、その後、大手各社が次々と免震ビルの建設に参入した。



日本初の実用免震ビル 技術研究所管理棟

1986~ 研鑽

さらなる技術の追求へ

常に国内トップレベルを維持してきたトンネル技術。そして、1986年(昭和61年)に日本初の実用免震ビルを建設して以来、高度化を進めている免震技術をはじめ、超高層建物の建設技術や室内環境制御技術など、着実に実績を積み重ねながら、さらなる最先端技術の研究開発に取り組んでいる。また近年重要視されているリサイクルやリニューアル、汚染土壌対策といった環境保全に向けた技術の開発など、その取り組みを広げている。

1996(平成8年)
世界初、国宝を守る
免震展示ケース



灯台レンズ用
免震装置

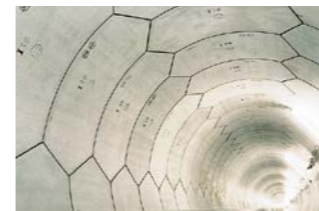
2000(平成12年)
世界初、灯台のレンズ免震装置

2001(平成13年)
世界初、全断面斜坑TBMで貫通
長大斜坑を短期間かつ経済的に施工するため、世界で初めての試みである全断面を一度にTBMで掘削する工法を採用した。



神流川発電所工事
の長大斜坑

2001(平成13年)
ハニカムセグメントを用いた同時施工が
国土技術開発賞最優秀賞を受賞



安威川流域下水道
摂津高槻
雨水汚水幹線

2004(平成16年)
パッシブリスミング空調システム、
国土技術開発賞優秀賞を受賞

2006(平成18年)
三重県立熊野古道センターが竣工
第49回BCS賞他、数々の賞を受賞

2007~ 前進

新時代を築く

連綿と受け継ぎ進化させてきた土木・建築技術を縦横無尽に活かし、国内・海外の大工事をつぎつぎ施工。アクティブ消音技術、いっそう深化させた免震技術など、未来を支える研究開発も大きく開花した。未曾有の大災害となった東日本大震災にも、技術力を惜しみなく注いで支援の手をさしのべ復旧に貢献した。高い志と一歩先を行く取り組みで常に時代をリードしてきた奥村組は、これからも、いつの日も、果敢に前進をつづける。

2007(平成19年)
創業100周年
創業100周年を迎えられたことに感謝の気持ちを込め、ゆかりの深い奈良の地に「奥村記念館」を開館。



奥村記念館

台湾桃園国際空港MRT空港線を受注

2011(平成23年)
東日本大震災発生直後からの復旧・被災地域支援

2014(平成26年)
アクティブ消音技術を開発
日経テクノロジー展望2020 世界を変える100の技術(日経BP社)に掲載。

2016(平成28年)
技術研究所管理棟において、竣工30年目の免震性能を実験により確認



2016年10月20日の日本経済新聞朝刊に掲載された15段広告

2020(令和2年)
技術研究所の実験施設の大規模リニューアル
「室内環境実験棟」を新設するとともに、管理棟をZEB化改修するなど、既存の実験施設の機能を大幅に向上させるリニューアルを実施。

社業の発展を通じ広く社会に貢献する